

「保健体育」（ゲートカーリング）学習指導案

1. 日時 令和4年10月

2. 場所 体育館

3. 学部・学年・組 高等部 （第1・2・3学年）

4. 単元（題材）名 「ゲートカーリング」

5. 単元（題材）目標

- ・競技のルールを理解し、道具を適切に扱うことができる。（知識及び技能）
- ・チームで協力しルールやマナーを守りながら、仲間と話し合っ作戦を立てることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- ・ゲーム展開などの状況を把握し、目的や状況に応じた行動を積極的に行うことができる。（学びに向かう力、人間性等）

6. 生徒観 略

7. 教材観

本単元は、立位がとれる生徒や車椅子を使用している生徒、また上肢全体を使える生徒や上肢に制限がある生徒など障がいの程度が違っていても取り組める単元として考えた。ワンプレイごとに変化する状況を設定することで、力の調整やボールのコントロールが必要な場面が生まれ、生徒の主体的な判断操作性が求められる。またチーム戦にすることで、得点を競うということだけでなく、チーム内で作戦をまとめて自分の考えを他者に伝えたり意見を聞き入れたりすることで、コミュニケーション能力の向上につながると考えた。

8. 指導観

道具を自分の身体に適した方法で操作しながら、ルールに則って運動に取り組むことや状況判断など主体的に考え、取り組む態度を育てることをねらいとしている。そのために、ボールやスティック等の道具に慣れることから始め、生徒のレベルに応じて技術を高めていくことができるようにする。さらに、チーム編成においては、体育に積極的な姿勢の3年生がリーダーシップを発揮しやすいようチーム分けをした。その中で、異なる学年やクラスの生徒が一つのチームになることでコミュニケーション能力の向上を図りたいと考える。また、自らの課題を見つけ、自分の技能向上を目指すだけでなく、チームメイトの意見を聞いたり自らの考えを伝えたりするなど友だちと協働しながら成功体験を増やすことで自尊心や自己肯定感を育んでいきたい。さらに本校にはボッチャクラブがあり、本単元の中でも6名の生徒が在籍している。ゲートカーリングはボッチャのルールと類似している部分があるため、競技を行ったり作戦を考えたりすることにスムーズに取り組めることが期待できる。類似しているルールの中で普段とは異なった方法で取り組むことにより、別の視点から新しい発見ができるようになると思う。生徒の「身体の動き」の課題や「コミュニケーション」の課題を解決することで、これからの学校生活や将来の学習面・生活面の課題を解決していきたい。そのために、この体育の授業で「道具を自らの身体に適した方法で操作すること」と「コミュニケーション能力の向上」とに着目して授業を展開していく。なお、新型コロナウイルス感染症対策として、用具は使用前と使用後に消毒をする。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①個人の特性に応じて道具を使い、ボールを打つことができる。 ②ボールを打つ力や打つ位置を調整することができる。 ③ルールを理解することができる。	①ゲーム状況を把握し、最善の判断ができる。 ②自らの意見を他者に伝える。	①ルールやマナーを守って積極的に取り組もうとする。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全8時間、本時は第4時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
第一次	1	・オリエンテーション（ゲートカーリングとは） ・ゲートカーリングのルール説明 ・道具の紹介と使用方法の説明	・ゲートカーリングの説明をする。 ・ゲームを行う際のルール、注意点を説明する。 ・使用する道具の紹介と使用方法の説明をして道具に触れる。	・ゲートカーリングの説明や実際に打つ様子を見せることで興味がもてるようする。 ・具体的な例を用いてルールの説明をすることで理解しやすいように指導する。 ・スティックやボールに触れることで打つイメージがもてるようにする。	A①③
	2	・ゲートカーリングのルールを復習する。 ・打つ練習	・ゲームを行う際のルール、注意点を説明する。 ・スティックを使ってボールを打つ。 ・対象物を設定し、目標に向かって打つ。	・具体的な例を用いてルールの説明をすることで理解しやすいように指導する。 ・生徒が上手にできているところを伝え、自己肯定感を高め、主体性を促す。	A①③
第二次	3	・打つ練習	・ゲームを行う際の作戦について、アドバイスを、適宜行う。 ・対象物を設定し、目標に向かって練習する。	・具体的な例を用いてルールの説明をすることで理解しやすいように指導する。 ・自分自身で力のコントロールができるように促す。 ・作戦にバリエーションがあることを理解できるように適宜声をかける。	A①③
第三次	④ 5 6	・チームに分かれて対戦	・チームに別れて対戦する。 ・ルール、注意点を確認しながらゲームを行う。	・自分自身で力のコントロールができるように促す。 ・ルールが理解できるようワンプレイごとに説明する。 ・作戦会議の時間を設ける。	A② B①② C①
	7 8	・チームに分かれて対戦	・チームに別れて対戦する。 ・ルール、注意点をチーム内で確認しながらゲームを行う。	・自分自身で力のコントロールができるように促す。 ・作戦会議の時間を設ける。	B①②

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ボールを打つ力や打つ位置を調整することができる。
- ・決められたキーワードについてチームで話し合うことができる。
- ・ルールやマナーを守って積極的に授業に取り組もうとする。

(2) 本時の評価規準

- ・ボールを打つ力や打つ位置を調整できているか。
- ・決められたキーワードについてチームで話し合うできているか。
- ・ルールやマナーを守って積極的に授業に取り組もうとしているか。

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・スティック、テニスボール・得点シート（的）、ゲート（カラーコーン）、ビブス、タイマー、ホワイトボード

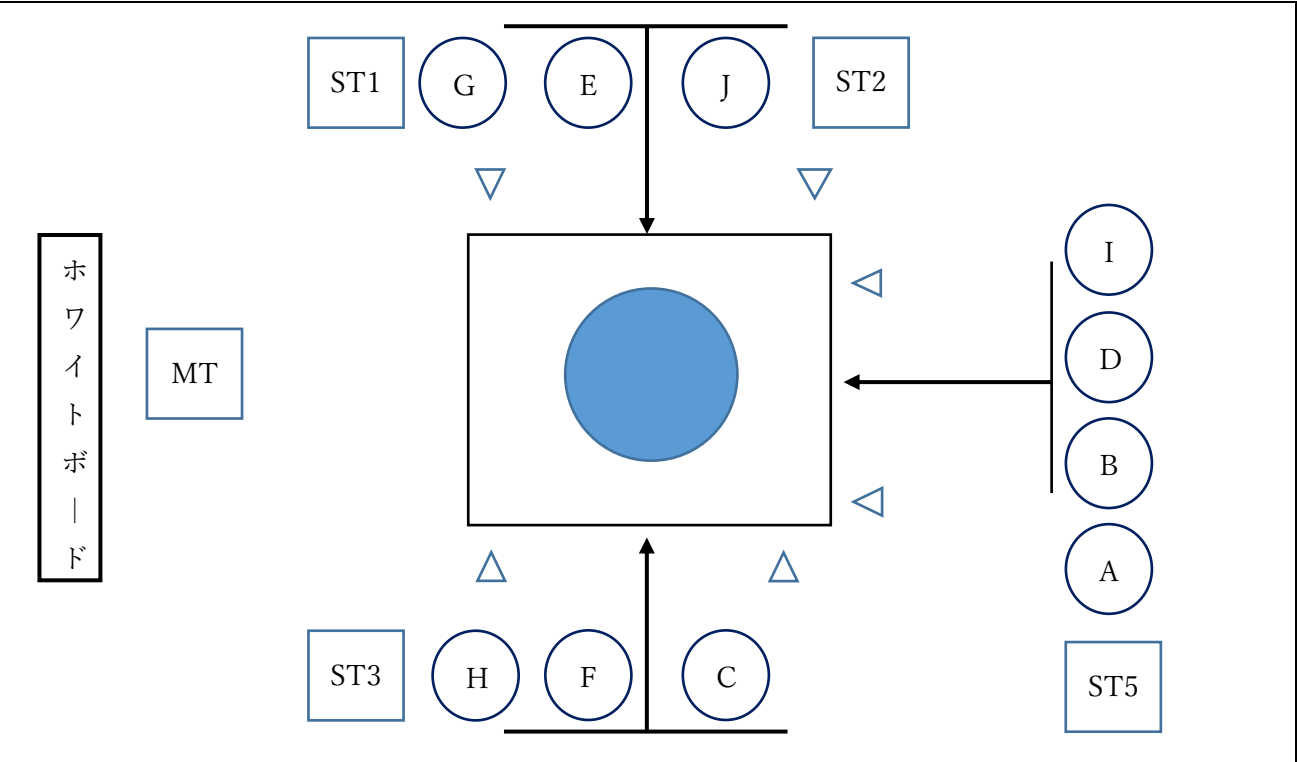
(4) 児童生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準(評価方法)
10分 導 入	・ 始まりの挨拶 ・ 出席確認、体調確認 ・ 前回の振り返り ・ 本時の内容確認 ・ ラジオ体操第一	・ 授業の始まりを意識できるように言葉をかけて、挨拶をする。 ・ 生徒の表情を見ながら体調を確認し、出席確認をする。(MT) ・ ラジオ体操後に再度体調確認をした後、競技とルールを説明する。(MT)	・ ルールを理解することができる。(A③) ・ 自らの体調を指導者に伝えることができる。(B②)
35分 展 開	・ 各チームの代表が集まり、じゃんけんをしてどのチームからプレイするかを決める。 ・ チームに分かれてプレイする順番を決める。 ・ ゲートカーリングを開始する。 ※1：MTの合図で順番が回ってきた生徒がテニスボールを打つ。 2：その結果を受けて「どのような場所に打つか」「どれくらいの力加減で打つか」等をチームで話し合う。 ※繰り返す	・ ホワイトボードに話し合う内容が焦点化した物を掲示し、作戦会議がスムーズに進行するように視覚支援を行う。(MT) ・ 各チームに1人または2人入り、打ち方や作戦会議の様子を見守り、必要に応じて助言する。(ST) ・ 各チームの様子を巡回して見守り、必要に応じて助言する。(MT) ・ スティックを使用する際や生徒の様子で危険なことがないか注意深く見守る。(MT) (ST)	・ 個人の特性に応じて道具を使い、ボールを打つことができる。(A①) ・ ボールを打つ力や打つ位置を調整することができる。(A②) ・ ルールを理解することができる。(A③) ・ チーム内で作戦会議を行い、ゲーム状況を把握したうえで、最善の判断ができる。(B①) ・ どのような展開であっても積極的にゲートカーリングに取り組むことができる。(C①) ・ 作戦会議において自らの意見を他者に伝えることができる。(B②)

5分 まとめ	・結果発表 ・体調確認 ・終わりの挨拶	・各生徒の取り組んでいた姿勢や様子を発表する。(ST) ・生徒の表情を見ながら体調を確認する。 ・聞こえやすい声で話しかけて、生徒が指導者に注目してから挨拶をする。(MT)	・自らの体調を指導者に伝えることができる。(B②)
-----------	---	--	---

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）



教室配置等

△：カラーコーン

○：生徒

□：MT・ST

作戦会議における視覚支援の具体的なキーワード

どのような場所に打つのか

なぜその場所に打つのか